

令和5年度第1回水道水質検査法検討会 議事要旨

1 日時

令和5年7月25日(火) 13:30~18:00

2 場所

オンライン会議

3 出席者(敬称略)

委員 五十嵐良明(座長)、小坂浩司、小林憲弘、神野透人、鈴木俊也、高木総吉、
高見澤雅彦、中村弘揮、林幸範、広木孝行、宮田雅典

オブザーバー 内山奈穂子(国立医薬品食品衛生研究所)

事務局 柳田貴広、関塚達也、川本逸平

(以上、厚生労働省医薬・生活衛生局水道課水道水質管理室)

4 議題

- (1) 検査方法告示の改正について
- (2) その他の検査法の改正について
- (3) その他

5 議事

- (1) 検査方法告示の改正について

○試薬等の調製量について

検査方法告示で規定される試薬等の調製量に自由度をもたせることについて提案があり、改正方針について了承された。告示等における記載内容については検討会での議論を踏まえて事務局で検討することとなった。

○非イオン界面活性剤の検査におけるアスコルビン酸ナトリウムを用いた残留塩素除去について

検査方法告示別表第28及び別表第28の2における試料採取時の残留塩素除去剤について、アスコルビン酸ナトリウムを追加することについて提案があり、案のとおり了承された。告示における記載内容について事務局で検討することとなった。

○水銀の検査における全自動機への対応の検討について

検査方法告示別表第7における水銀の検査について、近年の水質検査技術の向上により、前処理から測定までの一連の操作を全て自動で行う分析装置が開発されていることを踏まえ、課題に対する対応案について提案があり、案のとおり了承された。告示等における記載内容について事務局で検討することとなった。

○採水容器の見直しについて

一部の項目について検査方法告示で規定される採水容器の材質の追加及び洗浄方法の簡略化について提案があり、案のとおり了承された。

○ヘッドスペースガスクロマトグラフィー質量分析法で用いるバイアルキャップの材質の見直しについて

アルミ以外の金属製バイアルキャップの使用について提案があり、案のとおり了承された。告示における記載内容について事務局で検討することとなった。

○全有機炭素（TOC）の連続自動測定法について

分析機器メーカーの検証結果を踏まえて、それぞれの連続自動測定装置について検査精度等の確認を行った。

(2) その他の検査法の改正について

○PFOS・PFOAの検査方法について

ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペルフルオロオクタン酸（PFOA）の検査方法における課題の整理と見直しの方向性を確認した。

○農薬類検査方法の検討について

農薬類の検査方法について、今後検査法の統合を進めることとし、合わせてジクロロメタン代替溶媒やヘリウム代替キャリアーガスの検討を行うことについて確認した。

○腐食性（ランゲリア指数）の検査方法について

検水の状況に応じて腐食性（ランゲリア指数）の算出に蒸発残留物の濃度が採用できること、及び検水量の範囲を拡大することについて改正の提案があり、案のとおり了承された。

(3) その他

○検査方法告示に係る質疑応答集について

令和4年度に公表した検査方法告示に係る質疑応答集に追加する事項について了承された。

○水道法第34条の2の規定に基づく簡易専用水道の定期の検査について

簡易専用水道における定期の検査（法定検査）について、デジタル技術を用いて検査頻度の緩和等が可能かどうか、現況について情報共有した。